

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2019-196667
(P2019-196667A)

(43) 公開日 令和1年11月14日(2019.11.14)

(51) Int.Cl.			F 1			テーマコード (参考)	
E 0 6 B	1/56	(2006.01)	E 0 6 B	1/56	A	2 E 0 1 1	
E 0 6 B	1/18	(2006.01)	E 0 6 B	1/18	M	2 E 1 7 6	
E 0 6 B	1/62	(2006.01)	E 0 6 B	1/62	B		
E 0 4 G	23/02	(2006.01)	E 0 4 G	23/02	H		

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2018-92111 (P2018-92111)	(71) 出願人	390005267
(22) 出願日	平成30年5月11日 (2018. 5. 11)		Y K K A P 株式会社
			東京都千代田区神田和泉町 1 番地
		(74) 代理人	110002147
			特許業務法人酒井国際特許事務所
		(72) 発明者	武岡 慎之介
			東京都千代田区神田和泉町 1 番地 Y K K
			A P 株式会社内
		F ターム (参考)	2E011 JA03 KA06 KB03 KC01 KC09
			KD14 KF01 KG04 KH01 LA01
			LB02 LC02 LD02 LD04 LD08
			LE03 LF01 LF06
			2E176 AA19 BB25

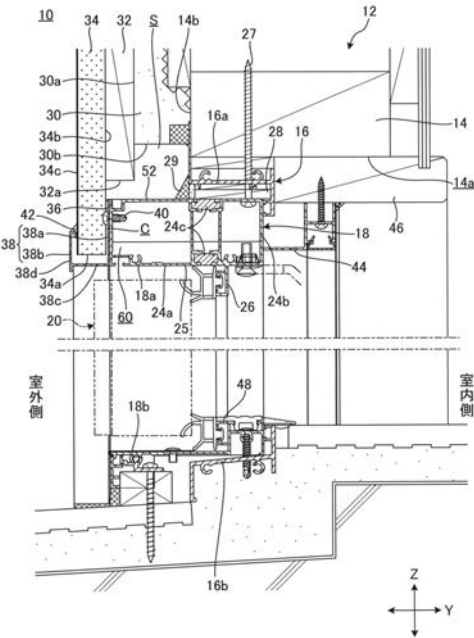
(54) 【発明の名称】 改裝建具

(57) 【要約】

【課題】高い断熱性能を得ることができる改裝建具を提供する。

【解決手段】改裝建具 1 0 は、建物 1 4 の開口部 1 4 a に設置された既設枠 1 6 と、建物 1 4 の外壁面 3 0 a を形成していた既設外壁材 3 0 とを残存させた状態で、既設枠 1 6 の内側に新設枠 1 8 を取り付け、既設外壁材 3 0 を新設外壁材 3 4 で覆って新たな外壁面を形成している。新設枠 1 8 は、その室外側見付け面 3 6 が既設外壁材 3 0 よりも室外側に張り出しており、且つ、新設外壁材 3 4 の室内側表面 3 4 b に対向配置されている。

【選択図】 図 2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

建物の開口部に設置された既設枠と、前記建物の外壁面を形成していた既設外壁材とを残存させた状態で、前記既設枠の内側に新設枠を取り付け、前記既設外壁材を新設外壁材で覆って新たな外壁面を形成した改装建具であって、

前記新設枠は、その室外側見付け面が前記既設外壁材よりも室外側に張り出しており、且つ、前記新設外壁材の室内側表面に対向配置されていることを特徴とする改装建具。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の改装建具であって、

前記新設外壁材の端面を覆う見切り材を備え、

前記見切り材は、前記新設枠の室外側見付け面又は枠外側見込み面に取り付けられる取付部と、前記新設外壁材の端面を覆うカバー部と、を有することを特徴とする改装建具。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の改装建具であって、

前記新設外壁材は、前記既設外壁材の表面に設けた胴縁の表面に取り付けられており、前記胴縁の端面は、前記既設外壁材の端面よりも前記開口部の内方側に張り出しており、

前記新設外壁材の端面は、前記胴縁の端面よりも前記開口部の内方側に張り出していることを特徴とする改装建具。

【請求項 4】

請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の改装建具であって、

前記新設枠は、室外側に配置される室外側部位と室内側に配置される室内側部位との間を断熱材で連結した連結構造であり、

前記室外側部位の室外側見付け面が、前記新設外壁材の室内側表面に対向配置されていることを特徴とする改装建具。

【請求項 5】

建物の開口部に設置された既設枠と、前記建物の外壁面を形成していた既設外壁材とを残存させた状態で、前記既設枠の内側に新設枠を取り付け、前記既設外壁材を新設外壁材で覆って新たな外壁面を形成した改装建具であって、

前記新設枠は、その室外側見付け面の少なくとも一部が前記新設外壁材によって覆われていることを特徴とする改装建具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、既設枠の内側に新設枠を取り付けた改装建具に関する。

【背景技術】**【0002】**

玄関ドア等のドア或いは窓を低コストで改装するために、建物の躯体に固定されている既設枠の内側に新設枠を取り付け、この新設枠に新設ドアや新設障子等の戸体を新たに取り付ける工法がある。例えば特許文献 1 には、既設枠の内側に新設枠を取り付け、既設外壁材の表面に新たな外壁面を形成する新設外壁材を取り付けた改装建具が開示されている。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開平 7 - 4 8 9 3 6 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

上記特許文献 1 の構成では、新設外壁材の端面が新設枠の枠外側見込み面に対向配置さ

10

20

30

40

50

れている。つまり新設枠の室外側見付け面は、その全域が見切り材（カバー材）のみによって覆われた状態で室外に臨んでいる。このため、この部分が熱の通り道となり、改装建具の断熱性能を低下させる懸念がある。

【0005】

本発明は、上記従来技術の課題を考慮してなされたものであり、高い断熱性能を得ることができる改装建具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明に係る改装建具は、建物の開口部に設置された既設枠と、前記建物の外壁面を形成していた既設外壁材とを残存させた状態で、前記既設枠の内側に新設枠を取り付け、前記既設外壁材を新設外壁材で覆って新たな外壁面を形成した改装建具であって、前記新設枠は、その室外側見付け面が前記既設外壁材よりも室外側に張り出しており、且つ、前記新設外壁材の室内側表面に対向配置されていることを特徴とする。

10

【0007】

また、本発明に係る改装建具は、建物の開口部に設置された既設枠と、前記建物の外壁面を形成していた既設外壁材とを残存させた状態で、前記既設枠の内側に新設枠を取り付け、前記既設外壁材を新設外壁材で覆って新たな外壁面を形成した改装建具であって、前記新設枠は、その室外側見付け面の少なくとも一部が前記新設外壁材によって覆われていることを特徴とする。

20

【0008】

このような構成によれば、新設枠の室外側見付け面が新設外壁材に対向配置されることで両者間の隙間を最小限に構成できると同時に、新設枠の室外側見付け面が新設外壁材によって覆われる。このため、新設枠の室外側見付け面が熱の通り道となること、さらに新設枠の室外側見付け面と新設外壁材との間の隙間が熱の通り道となることを抑制でき、高い断熱性能が得られる。

【0009】

本発明に係る改装建具において、前記新設外壁材の端面を覆う見切り材を備え、前記見切り材は、前記新設枠の室外側見付け面又は枠外側見込み面に取り付けられる取付部と、前記新設外壁材の端面を覆うカバー部と、を有する構成としてもよい。そうすると、見切り材が新設外壁材の端面を覆い、さらに新設枠の室外側見付け面と新設外壁材との間の隙間を覆うため、当該改装建具の外観品質及び断熱性能が向上する。特に、見切り材はその取付部が新設枠の室外側見付け面又は枠外側見込み面に取り付けられるため、取付部が外観上に露出せず、当該改装建具の外観品質が一層向上する。

30

【0010】

本発明に係る改装建具において、前記新設外壁材は、前記既設外壁材の表面に設けた胴縁の表面に取り付けられており、前記胴縁の端面は、前記既設外壁材の端面よりも前記開口部の内方側に張り出しており、前記新設外壁材の端面は、前記胴縁の端面よりも前記開口部の内方側に張り出した構成としてもよい。そうすると、躯体の開口部の内方側に大きく張り出した新設外壁材を胴縁で確実に保持することができ、新設外壁材の取付安定性が向上する。しかも、胴縁が既設外壁材よりも内方側に張り出しているため、新設枠と新設外壁材との間の空間の一部を胴縁で埋めることができ、断熱性能が一層向上する。

40

【0011】

本発明に係る改装建具において、前記新設枠は、室外側に配置される室外側部位と室内側に配置される室内側部位との間を断熱材で連結した連結構造であり、前記室外側部位の室外側見付け面が、前記新設外壁材の室内側表面に対向配置された構成としてもよい。そうすると、新設枠は、室外側部位と室内側部位との間が断熱されるため、当該改装建具の室内外方向の断熱性能が一層向上する。

【発明の効果】

【0012】

本発明によれば、高い断熱性能を得ることができる改装建具が得られる。

50

【図面の簡単な説明】**【 0 0 1 3 】**

【図 1】本発明の一実施形態に係る改装建具を室外側から見た姿図である。

【図 2】図 1 に示す改装建具の縦断面図である。

【図 3】図 1 に示す改装建具の横断面図である。

【発明を実施するための形態】**【 0 0 1 4 】**

以下、本発明に係る改装建具について好適な実施の形態を挙げ、添付の図面を参照しながら詳細に説明する。

【 0 0 1 5 】

10

図 1 ~ 図 3 に示すように、本実施形態の改装建具 1 0 は、建物 1 2 の躯体 1 4 の開口部 1 4 a に予め設置されていた既設ドアをドア枠（既設枠 1 6）を残して撤去し、残存させた既設枠 1 6 の内側に新たなドア枠（新設枠 1 8）を取り付けて新設ドア 2 0 を開閉可能に支持した建具である。改装建具 1 0 は、例えば住宅の玄関ドアの改装工事で設置される。改装建具 1 0 は、玄関ドア以外のドアの他、嵌め殺し窓、上げ下げ窓、引違い窓等のスライディング窓、開き窓等の回転窓等の改装用としても利用できる。

【 0 0 1 6 】

既設枠 1 6 は、上枠 1 6 a と、下枠 1 6 b と、左右の縦枠 1 6 c , 1 6 d とを四周枠組みすることで矩形の開口部を形成したものである。各枠 1 6 a ~ 1 6 d は、例えばアルミニウム等の金属材料の押出型材である。各枠 1 6 a ~ 1 6 d は、新設枠 1 8 の取り付け前から躯体 1 4 に固定されている。

20

【 0 0 1 7 】

新設枠 1 8 は、既設枠 1 6 よりも室外側に張り出すようにして既設枠 1 6 の内側に設けられる。新設枠 1 8 は、上枠 1 8 a と、下枠 1 8 b と、左右の縦枠 1 8 c , 1 8 d とを四周枠組みすることで矩形の開口部を形成したものである。各枠 1 8 a ~ 1 8 d は、例えばアルミニウム等の金属材料の押出型材で構成されている。

【 0 0 1 8 】

本出願において、見込み方向とは改装建具 1 0 の室内外方向、つまり室内側から室外側に向かう方向又はその逆方向（図中に矢印 Y で示す方向）をいう。見込み面とは見込み方向に沿って延在する面をいう。見付け方向とは見込み方向に直交する方向であり、上下方向に長尺な縦枠 1 6 c , 1 8 c 等の場合はその長手方向に直交する左右方向（図中に矢印 X で示す方向）をいい、左右方向に長尺な上枠 1 6 a , 1 8 a 等の場合はその長手方向に直交する上下方向（図中に矢印 Z で示す方向）をいう。見付け面とは見付け方向に沿った面をいう。枠状部材の枠内側（枠内方向）とは、例えば新設枠 1 8 の内側（新設ドア 2 0 側）をいい、枠状部材の枠外側（枠外方向）とは、例えば新設枠 1 8 の外側（既設枠 1 6 側や躯体 1 4 側）をいう。

30

【 0 0 1 9 】

図 2 に示すように、上枠 1 8 a は、室外側に配置される室外側部位 2 4 a と室内側に配置される室内側部位 2 4 b とを一对の断熱材 2 4 c で連結し、断面略矩形状に形成した連結構造である。室内側部位 2 4 b には、枠内側見込み面 2 5 から枠内側に突出した戸当たり部 2 6 が設けられている。上枠 1 8 a は、既設枠 1 6 の上枠 1 6 a と共に室内側部位 2 4 b が固定ねじ 2 7 を用いて躯体 1 4 に固定される。上枠 1 6 a と上枠 1 8 a との間は、スペーサ 2 8 が挟み込まれると共に、シール材 2 9 で封止される。

40

【 0 0 2 0 】

上枠 1 8 a は、室外側部位 2 4 a が既設枠 1 6 の上枠 1 6 a よりも室外側に張り出している。躯体 1 4 の室外側表面 1 4 b には、改装前の外壁面 3 0 a を形成していた既設外壁材 3 0 が残存している。上枠 1 8 a の室外側部位 2 4 a は、既設外壁材 3 0 の端面 3 0 b よりも開口部 1 4 a の内方側に配置される。上枠 1 8 a の室外側部位 2 4 a と既設外壁材 3 0 の端面 3 0 b との間には、既設枠 1 6 の上枠 1 6 a の見付け幅程度の間隔が設けられている。

50

【 0 0 2 1 】

既設外壁材 3 0 の外壁面 3 0 a には、胴縁 3 2 を介して新設外壁材 3 4 が取り付けられる。胴縁 3 2 の端面 3 2 a は、既設外壁材 3 0 の端面 3 0 b よりも開口部 1 4 a の内方側に張り出している。新設外壁材 3 4 の端面 3 4 a は、胴縁 3 2 の端面 3 2 a よりもさらに開口部 1 4 a の内方側に張り出している。上枠 1 8 a の室外側部位 2 4 a は、その室外側見付け面 3 6 が新設外壁材 3 4 の室内側表面 3 4 b と対向配置される。本実施形態の場合、新設外壁材 3 4 の端面 3 4 a は、上枠 1 8 a の枠内側見込み面 2 5 よりも開口部 1 4 a の外方、つまり上枠 1 8 a の枠外側に多少引っ込んだ位置に配置されている。端面 3 4 a は、上枠 1 8 a の室外側見付け面 3 6 の見付け幅の中央よりも枠内側となる位置まで延在している。端面 3 4 a は、枠内側見込み面 2 5 と面一、或いは枠内側見込み面 2 5 よりも多少内方側に張り出した位置に配置されてもよい。

10

【 0 0 2 2 】

上枠 1 8 a の室外側部位 2 4 a には、新設外壁材 3 4 の端面 3 4 a を覆う見切り材 3 8 が取り付けられる。見切り材 3 8 は、アルミニウム等の金属材料の押出型材である。見切り材 3 8 は、上枠 1 8 a の室外側見付け面 3 6 にねじ 4 0 を用いて取り付けられる平板状の取付部 3 8 a と、端面 3 4 a を覆う L 字状のカバー部 3 8 b とを有し、断面略コ字状に形成されている。取付部 3 8 a は、上枠 1 8 a の室外側見付け面 3 6 に対して取り付けられるため、外観上に露出せず、外観品質を損なうことがない。カバー部 3 8 b は、新設外壁材 3 4 の端面 3 4 a を覆う見込み片部 3 8 c と、新設外壁材 3 4 の室外側表面 3 4 c の縁部を覆う見付け片部 3 8 d とを有する。見付け片部 3 8 d の端部は、室外側表面 3 4 c に当接配置され、その隙間がシール材 4 2 で封止される。新設外壁材 3 4 の室外側表面 3 4 c は、改装後の新たな外壁面を形成する。

20

【 0 0 2 3 】

上枠 1 8 a の室内側部位 2 4 b には、内額縁 4 4 が取り付けられる。内額縁 4 4 は、躯体 1 4 の開口部 1 4 a の室内側に装着された木額縁 4 6 と室内側部位 2 4 b との間に亘るように設けられ、既設枠 1 6 の上枠 1 6 a 等を覆い隠す化粧部材である。

【 0 0 2 4 】

図 2 に示すように、下枠 1 8 b は、既設枠 1 6 の下枠 1 6 b に重ねて配置され、下枠 1 6 b や躯体 1 4 に対してねじ止め固定される。下枠 1 8 b は当該改装建具 1 0 の床面から一段下がるように設けられた戸当たり部 4 8 を有する。

30

【 0 0 2 5 】

図 3 に示すように、左右の縦枠 1 8 c , 1 8 d は、上記した上枠 1 8 a と設置方向等が異なる以外、基本的な構成は同一又は同様である。そこで、縦枠 1 8 c , 1 8 d において、上枠 1 8 a と同一又は同様な構成については同一の参照符号を付して詳細な説明を省略する。本実施形態の縦枠 1 8 c , 1 8 d は、上枠 1 8 a の見切り材 3 8 と形状の異なる見切り材 5 0 が取り付けられる。

【 0 0 2 6 】

縦枠 1 8 c , 1 8 d についても、胴縁 3 2 の端面 3 2 a は、既設外壁材 3 0 の端面 3 0 b よりも開口部 1 4 a の内方側に張り出しており、新設外壁材 3 4 の端面 3 4 a は、胴縁 3 2 の端面 3 2 a よりもさらに開口部 1 4 a の内方側に張り出している。また、縦枠 1 8 c , 1 8 d の室外側部位 2 4 a は、室外側見付け面 3 6 が新設外壁材 3 4 の室内側表面 3 4 b と対向配置される。縦枠 1 8 c , 1 8 d の場合、新設外壁材 3 4 の端面 3 4 a は、縦枠 1 8 c , 1 8 d の室外側見付け面 3 6 の見付け幅の中央よりも枠外側となる位置にある。縦枠 1 8 c , 1 8 d についても、端面 3 4 a は、枠内側見込み面 2 5 と面一、或いは枠内側見込み面 2 5 よりも多少内方側に張り出した配置されてもよい。端面 3 4 a は、縦枠 1 8 c , 1 8 d の室外側見付け面 3 6 の見付け幅の中央よりも枠内側となる位置にあってよい。

40

【 0 0 2 7 】

見切り材 5 0 は、アルミニウム等の金属材料の押出型材である。見切り材 5 0 は、縦枠 1 8 c , 1 8 d の枠外側見込み面 5 2 にねじ 4 0 を用いて取り付けられる T 字状の取付部

50

50aと、端面34aを覆うL字状のカバー部50bとを有する。取付部50aは、見込み方向に沿う板片が縦枠18c, 18dの枠外側見込み面52に対して取り付けられるため、外観上に露出せず、外観品質を損なうことがない。カバー部50bは、図2に示す見切り材38のカバー部38bと同様な構成である。カバー部50bは、見込み片部38c及び見付け片部38dを有し、見付け片部38dの端部が新設外壁材34の室外側表面34cにシール材42を介して取り付けられる。縦枠18c, 18dは、見切り材50に代えて上枠18aと同様な見切り材38を用いてもよい。同様に、上枠18aは、見切り材38に代えて縦枠18c, 18dと同様な見切り材50を用いてもよい。

【0028】

図1～図3に示すように、本実施形態の新設ドア20は片開きである。新設ドア20は、縦枠18cの室外側部位24aに取り付けられたヒンジ54を介して新設枠18の内側で開閉可能に支持される。新設ドア20の戸先側見込み面には、ラッチ56が出没可能に設けられている。上記したように縦枠18c, 18dでは、新設外壁材34の端面34aが室外側見付け面36の見付け幅の中央よりも枠外側となる位置にある。このため、見切り材50のカバー部50bの見込み片部38cは、縦枠18c, 18dの枠内側見込み面25よりも枠外側にオフセットした位置に配置される。これにより、端面34a及び見込み片部38cがヒンジ54や新設ドア20の戸先側の煙返し58と干渉することを防止している。

【0029】

以上のように、本実施形態に係る改装建具10では、新設枠18の上枠18a及び縦枠18c, 18dは、その室外側見付け面36が既設外壁材30よりも室外側に張り出しており、且つ、新設外壁材34の室内側表面34bに対向配置されている。この際、新設枠18の上枠18a及び縦枠18c, 18dは、その室外側見付け面36の少なくとも一部が新設外壁材34によって覆われている。換言すれば、新設外壁材34は、新設枠18の室外側見付け面36の少なくとも一部を覆う位置まで開口部14aの内方側に延出している。

【0030】

従って、当該改装建具10は、新設枠18の室外側見付け面36が新設外壁材34に近接配置され、両者間の隙間Cが最小限に構成される。同時に、新設枠18の室外側見付け面36が断熱材としても機能する新設外壁材34によって覆われる。このため、新設枠18の室外側見付け面36が室内外方向の熱の通り道となること、さらに室外側見付け面36と新設外壁材34との間の隙間Cが室内外方向の熱の通り道となることを抑制できる。これにより当該改装建具10は、高い断熱性能が得られる。特に、本実施形態の場合は最も高温の空気にさらされる上枠18aの室外側見付け面36の略全域が新設外壁材34によって覆われる。このため、一層高い断熱性能を確保できる。勿論、上記した通り、縦枠18c, 18dの室外側見付け面36もその略全域を新設外壁材34で覆う構成としてもよい。この際、室外側見付け面36を形成する新設枠18の室外側部位24aには、中空部60が形成されている。このため、新設枠18の枠内側から枠外側への熱の伝達を中空部60による断熱作用によって抑制できる。さらに新設枠18は、断熱材24cを設けた連結構造のため、一層高い断熱性能が得られる。

【0031】

当該改装建具10の施工手順の一例としては、既設枠16及び既設外壁材30を残存させた状態で、既設枠16の内側に新設枠18を取り付け、続いて見切り材38, 50を取り付け、胴縁32及び新設外壁材34を取り付ける。つまり、当該改装建具10は、新設枠18の施工と新設外壁材34の施工とを同時に実施することができ、施工費用や工期を抑えることができる。

【0032】

当該改装建具10では、胴縁32の端面32aが既設外壁材30の端面30bよりも開口部14aの内方側に張り出しており、さらに新設外壁材34の端面34aが胴縁32の端面32aよりも開口部14aの内方側に張り出している。このため、開口部14aの内

10

20

30

40

50

方側に大きく張り出した新設外壁材 3 4 を胴縁 3 2 で確実に保持することができる。しかも、胴縁 3 2 が既設外壁材 3 0 よりも内方側に張り出しているため、新設枠 1 8 と新設外壁材 3 4 との間の空間 5 の一部を胴縁 3 2 で埋めることができ、断熱性能が一層向上する。

【 0 0 3 3 】

なお、本発明は、上記した実施形態に限定されるものではなく、本発明の主旨を逸脱しない範囲で自由に変更できることは勿論である。

【 0 0 3 4 】

上記実施形態では、新設枠 1 8 の上枠 1 8 a 及び縦枠 1 8 c , 1 8 d の室外側見付け面 3 6 を新設外壁材 3 4 の室内側表面 3 4 b に対向配置した構成を例示したが、下枠 1 8 b 10 も同様な構成としてもよい。すなわち、例えば改装建具 1 0 が窓である場合、下枠 1 8 b の周囲にも新設外壁材 3 4 が設置されるため、下枠 1 8 b についても上枠 1 8 a 等と同様な構成にするとよい。

【 0 0 3 5 】

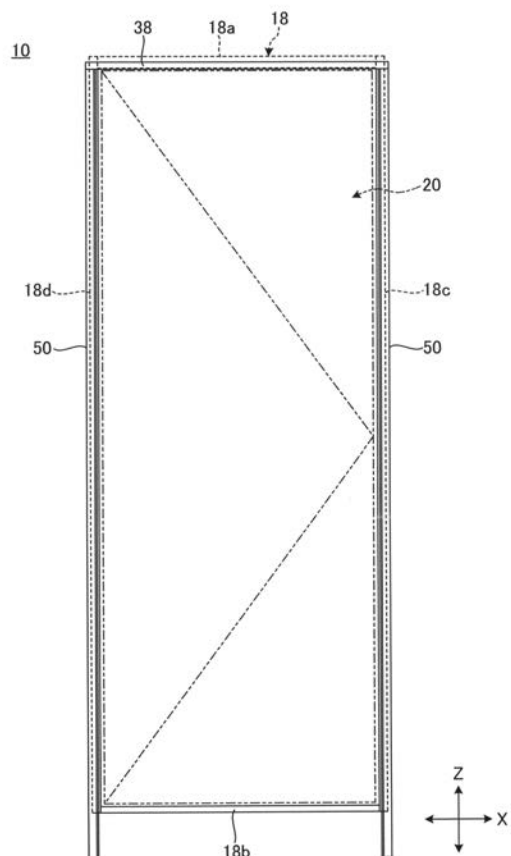
上記実施形態では、断熱材 2 4 c で室外側部位 2 4 a と室内側部位 2 4 b とを連結した断熱構造の新設枠 1 8 を例示したが、新設枠 1 8 は断熱材 2 4 c を用いていない構成でもよい。

【 符号の説明 】

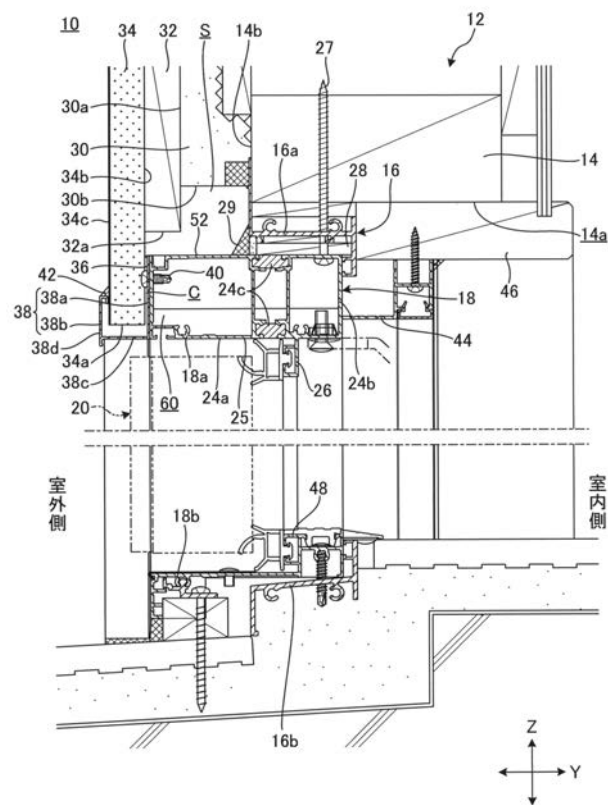
【 0 0 3 6 】

1 0 改装建具、1 2 建物、1 4 躯体、1 4 a 開口部、1 4 b 室外側表面、1 20 6 既設枠、1 6 a , 1 8 a 上枠、1 6 b , 1 8 b 下枠、1 6 c , 1 6 d , 1 8 c , 1 8 d 縦枠、1 8 新設枠、2 0 新設ドア、2 4 a 室外側部位、2 4 b 室内側部位、2 4 c 断熱材、2 5 枠内側見込み面、3 0 既設外壁材、3 0 a 外壁面、3 0 b , 3 2 a , 3 4 a 端面、3 2 胴縁、3 4 新設外壁材、3 4 b 室内側表面、3 4 c 室外側表面、3 6 室外側見付け面、3 8 , 5 0 見切り材、3 8 a , 5 0 a 取付部、3 8 b , 5 0 b カバー部、5 2 枠外側見込み面

【図 1】



【図 2】



【図 3】

